

トラック 6-1

この話は昔コモロで起こったことだ。男と女がいた。男はマジユズルといい、女はムツァツァジウオワといった。遠い昔のこの頃は、コモロはジンが住んでいる国だった。

彼らはこの厄介さの中で生活していたが、ある日子供が生まれた。それは男の子だった。彼らは、そういうわけで貧しさと飢えの中で生き続けた。子供は大きくなり、(コーラン) 学校で学び始めた。学校から帰る毎に、何かしら暖かい食事にありついた。

或る日、先生が他の生徒たちと一緒に彼を、柴を探しに奥地に遣った。彼は生徒たちのことを気にかけ、ムゼ・マレヴと呼ばれる場所には近づかないように言った。というのも、そこはジンたちが住んでいる場所だったからである。ジン・カンガというひとりのジンがそこに住んでおり、彼はメロン畑の近くに住んでいた。その日、子供たちは奥地に行ったが、何の問題もなく帰ってきた。翌日学校に行くと、また奥地に遣られた。奥地で彼らは空腹になった。その子供はお腹が空いたので、メロンのあるところに行くと言い出した。仲間たちはやめさせようとしたが、彼は聞き入れなかった。彼らは懇願したが、彼はまた拒み、彼らは諦めた。そこで彼は、メロンのある方向に進んだ。彼がメロンを取ろうとかがんだ時に、ジン・カンガがやって来た。

仲間たちは長い間彼を待ったが、生きていた証拠がなかったので、とうとう彼らは、先生に頼まれた柴を持って家に帰った。彼らは、仲間の子供がどこに行ったのか尋ねられた。「あの子は、メロンの方に行くといってたよ」。

子供の家族はそれを聞いて泣き出した。

「ああ、なんてことだ。もうだめだ。私たちの子はジン・カンガにさらわれてしまった」。

子供はメロンを持ち上げようとしたが、とても重かったので持って来れなかった。ジンは子供とメロンを掴み、ハハヤとドモハンボワニの間にあるムナ・ミロンツィと呼ばれる場所まで運んだ。それだけだった。ジンは子供を彼の隠れ場に置いて行った。

一ヶ月が過ぎ、それから二ヶ月、三ヶ月目が過ぎたが子供は見つからなかった。両親は神に祈ったが、何も起こらなかった。ある日両親は、ジンのことに詳しい先生と出会った。彼は両親に言った。

「来なさい。私が秘薬を作って、カンガがあなたたちの子供を連れて戻るようにしよう」。そこで両親は先生の家に行った。先生は両親に頼んだ。

「私のために牝牛を探しに行ってくれ」。

「でも、食べるものさえ見つけられないのに、どこで牝牛を見つけられるのでしょうか。お願いします。もし私たちが子供にまた会えたら感謝しますし、あなたが求めるものを見つけようと思います。今は不幸にも、あなたにそれを見つけて差し上げられませんが」。

そこで先生は秘薬を作り始めた。というのは彼自身もジンだったのである。彼らは秘薬を作り、3日間秘薬を作った。3日目になって、子供を見たという人が空港(ハハヤ)から着た。彼は眠っている時に夢の中で子供を見たのだった。子供は彼にこう言った。

「私の父と母に言って下さい。シフンドのモスクに行ってお祈りをして下さいと。私は今

いるところですよ。ごく苦しんでいるからです。」

この人は自分が見たことを父親と母親に言いに来てきたのだった。母親は頼まれたことをしにモスクに行った。そこでやるべきことをしてから、彼女は家に戻った。その後余り日をおかず、3日後に子供はジン・カンガに連れられて戻ってきた。彼は金持ちになって帰ってきた。彼が金持ちになったのは、ジン・カンガが自分の町で、多くの財産を彼に与えたからだった。